

平成25(2013)年度
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻
修士課程(文化・人間情報学コース)

入学試験問題

専門科目

(平成24年8月20日 14:00~16:00)

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. 本冊子は、文化・人間情報学コースの受験者のためのものである。
2. 本冊子の本文は4ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は3枚ある。第1問は、解答用紙1枚を使うこと。(裏面を使ってもよい) 第2問は、選択した記号ごとに解答用紙1枚を使うこと。このほかにメモ用紙が1枚ある。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号(例:「第1問」)、選択記号がある場合にはその記号(例:「第2問(a)」)及び受験番号を必ず記入すること。問題番号、選択記号、及び受験番号を記入していない解答は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用すること。
6. 第1問は日本語で答えること。第2問は日本語か英語で答えること。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、メモ用紙は持ち帰ってはならない。
9. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏名	

文化・人間情報学 第1問 Question L1

次の (A) (B) 2つの文章を読んで、問1から問3の質問に日本語で答えなさい。
第1問全体(問1から問3まで)で解答用紙1枚を使いなさい。ただし裏面も使
ってよい。

(A)

下記出典の文章を掲載しています。

(出典：岡田英弘『歴史とはなにか』文藝春秋、2001年)

(B)

下記出典の文章を掲載しています。

(出典：渡辺京二『なぜいま人類史か』洋泉社、2007年)

問1 問題文(A)の下線部で、なぜ「中世」などという時代区分を挿入するのは不合理なのか、著者の考えに従って100字前後で説明しなさい。

問2 問題文(A)と問題文(B)の歴史観の違いを300字前後で説明しなさい。

問3 問題文(A)と問題文(B)の歴史観について、あなたがどちらの立場に立つか述べなさい。選んだ歴史観をふまえて、文化・人間情報学コースで組みみたいと考えている研究対象あるいは研究方法論のどちらか一つを選び、それについて論じなさい。字数はとくに制限しない。

文化・人間情報学 第2問 Question L2

以下の(a)から(f)の6問のうち、2問を選び、それぞれ20行以内で説明しなさい。英語で答えてもよい。ひとつの問題について1枚の解答用紙を使い、解答文のはじめに、必ず選んだ記号を示すこと。

(a) 「文化」と「イデオロギー」のあいだの、思想的関連を述べなさい。

(b) 「ゲーデルの不完全性定理 (Incompleteness Theorem)」と「チューリングの停止性問題 (Halting Problem)」とを、対比しつつ説明しなさい。

(c) フェルディナン・ド・ソシュール (Ferdinand de Saussure) の「ことばの回路 (le circuit de parole)」とシャノン (Claude Shannon) とウィーバー (Warren Weaver) による「伝達モデル (The Transmission Model of Communication)」とを比較して解説しなさい。

(d) 「CAI (Computer Assisted Instruction)」と「CSCL (Computer Supported Collaborative Learning)」の背景にある思想の違いについて述べなさい。

(e) 「ハレ」と「ケ」と「ケガレ」という概念の関連について説明しなさい。

(f) 企業の人材活用におけるダイバーシティ・マネジメントとワーク・ライフ・バランス支援の異同に関して説明しなさい。